

く候間、早々了仙寺と申寺の山へ上り見申候處、早一の潮は其節引去り申候に、其波の中を渡りて、市人并諸役人等皆山に上り申候、

扱然るに又煙草一二ふく許も吞候間に、二の潮來り候やと、人々騒ぎ候得共、一向其様子も無之、大工町の邊りに煙立上り、出火々々と騒ぎに、寺鐘を撞かけ候に、又阿治川邊に、出火燃立候間に、二の潮、柿崎濱へ突かけ、浪除土手を越て、下田湊へ參り候に、其浪にて二ヶ所の出火消、九百軒の人家、一時に將基倒しに相成、青海原と相成候、八百石以上の船十三艘程、下田町を打越、岡方村、本郷村の畑中、又村中へ上り、其時異國船は、若の浦と申處に繋ぎ有之候處、早纜切れて、大走島の上の方、鷗島の下の方に漂ひ來りしに、早三段にかけし橋、壹段と致し、大ゆれに成て流れ來りしが、其二の潮の引につけて、元の邊へ戻りたり、

扱又しばし有て三の汐、柿崎へつきかけ候に、此汐にて百餘軒の柿崎村、一時に碎かれ皆流れ、又其邊りに繋ぎし大船凡拾七八艘此船皆五百石方、村中に打上げ碎かれ流れたり、其潮下田の方へ廻り來りたれども、最早一軒の家もなく、青海原の事なれば、其潮、本郷村岡方村の邊一面にさし込て、山際まで打かけたり、○中略

扱其二の潮、三の潮にて、子を抱て逃る女や、親を負て山に登るもの、皆水底に沈み、或は樹の梢にか、り、又流れ行、屋根棟に乗て叫ぶ聲、實に目も當られざるさま也、○中略

四の潮、五の潮、六の潮も、最早追々干潟にも成る時節につき、追々軽く相成候、○中略

五日、又九ツ頃、大津波來り候由、誰いふともなく風聞致し候、我々本覺寺山々本郷村江引移止宿仕候處、夕六ツ半頃、又津波來り申候、下田岡方村江上り候得共、最早流し候人家無故に、さして騒ぎ不申候、二の潮も凡十町許の方まで上り申候、○中略

十三日

憂北生